

I. 導入

おはようございます。今朝、カレンとそろって OIC の皆さんとともに礼拝できることを心から喜んでいました。この数ヶ月間、いくつかの試練を通らされましたが、主はいつもともにいてくださり、無事に私たちを大阪に帰らせてくださいました。主に感謝します。そして、皆さんのお祈りと励ましの数々にも感謝しております。

多くの方々から、励ましのメールやカードをいただきましたが、それだけでなく、先週日曜日の夕方に家に着くと、玄関の前には風船で飾られたプレゼントが私たちを待っていました。そして、火曜日に事務所に行くと、そこにも花やクッキー、カードが机の上にあります。本当に恐縮してしまいましたが、同時に、私たちを笑顔にもしてくれました。本当にありがとうございます。皆さんは私たちにとって祝福です。



私たちは誰でも励ましが必要です。そして、みんながお互いを励まし合えるようにと私は祈ります。けれどもそれ以上に、私たち皆が主の励ましを得られるように祈ります。パウロは、**2テサロニケ 2:16-17** で同じようなことを語っています。「**2:16 わたしたちの主イエス・キリスト御自身、ならびに、わたしたちを愛して、永遠の慰めと確かな希望とを恵みによって与えてくださる、わたしたちの父である神が、2:17 どうか、あなたがたの心を励まし、また強め、いつも善い働きをし、善い言葉を語る者としてくださるように。**」

この箇所にある「永遠の」という言葉に注目してください。今日のメッセージは復活と永遠の命についてですから、これはぴったりの導入です。前回のメッセージからずいぶん日が経ってしまいましたが、今日から使徒言行録の学びを再開したいと思います。使徒 1 章で、弟子たちはイエスが天に昇っていかれるのを見ました。2 章では、弟子たちは聖霊に満たされ、3 章では、ペトロとヨハネが神殿に祈りに行った時、彼らを通して主が驚くべき奇跡を起こしてくださいました。生まれつき足が不自由だった男性が癒されたのです。これによって、ペトロは神殿の群衆に語る機会を得ました。そして、ペトロはイエスについて力強く語り、**使徒 3:15** で、「**3:15 あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。**」と宣言しました。

ここで、ペトロはイエスの復活について語っています。教会が始まった当初から、教会は復活を宣べ伝えていたのです。イエスは十字架上で死なれましたが、墓からよみがえり、今も永遠までも生きておられるおかたです。アーメン。イエスの復活はクリスチャンの信仰の中心部分です。というのも、私たちが生ける主に仕えていることを意味し、イエスに従う者すべてに約束された永遠の命を証明するものだからです。主が復活されたからこそ、死が克服されたこと、そして、世の罪の代価として父なる神がイエスの十字架上の犠牲を受け入れてくださったことを私たちは確信することができます。

復活があるからこそ、十字架は美しいのです。そう考えたことはありませんか。イエスが死んだままなら、十字架は死と辱めの象徴でしかなかったでしょう。けれども、イエスは死からよみがえられました。だからこそ、十字架は美しいのです。復活と永遠の命に至る扉を意味するものなのです。



今日は、使徒 4 章の学びを始めていきたいと思います。これは、ペトロとヨハネが神殿で語っている場面です。では、ともに読んで、彼らの説教にどのような反応があったか見ていきましょう。使徒 4:1-4 を読みましょう。

II. 聖書朗読 使徒 4:1-4 (新共同訳)

4:1 ペトロとヨハネが民衆に話をしていると、祭司たち、神殿守衛長、サドカイ派の人々が近づいて来た。 4:2 二人が民衆に教え、イエスに起こった死者の中からの復活を宣べ伝えているので、彼らはいらだち、 4:3 二人を捕らえて翌日まで牢に入れた。既に日暮れだったからである。 4:4 しかし、二人の語った言葉を聞いて信じた人は多く、男の数が五千人ほどになった。

III. 教え

使徒 2 章の最後に、信徒が三千人ほどだったと書いてあるのを覚えておられるでしょうか。今日の箇所では、男性の数しか数えられていませんが、五千人に増えています。イエスを信じる信徒の交わりは急激な成長を遂げ、使徒言行録の書簡を学び終えるころには、教会が 30~40 年の間にローマ帝国全域およびそれ以遠まで拡大していることがわかります。



ユダヤ教の指導者たちは、教会の急成長に対して危機感を抱いていましたが、この箇所では彼らを怒らせたのは、復活でした。**使徒 4:2** をもう一度よく見てみましょう。「**4:2 二人が民衆に教え、イエスに起こった死者の中からの復活を宣べ伝えているので、彼らはいらだち、**」この一節から察するところ、ペトロとヨハネはおそらくイエスの復活を例に挙げて、信じる者すべてに約束された復活について語っていたのでしょう。これが指導者たちを苛立たせ、ふたりは投獄されます。この指導者たちはいったい誰だったのでしょうか。そして、復活を宣べ伝えることがなぜそれほど彼らを怒らせたのでしょうか。使徒 4:1 には、サドカイ派の名が挙がっています。サドカイ派は、復活の教理を一切認めないユダヤ教の一派でした。当時のユダヤ教では、皆が同じ教えを信じているわけではありませんでした。多くの教派に分かれていましたが、中でもファリサイ派とサドカイ派は目立つ存在でした。

まだずいぶん先の学びになりますが、使徒 23 章では、パウロが最高法院での取り調べに対し、これらの教派の違いを使って自分の主張をうまく論じています。**使徒 23:6-8** にはこうあります。「**23:6** パウロは、議員の一部がサドカイ派、一部がファリサイ派であることを知って、議場で声を高めて言った。『兄弟たち、わたしは生まれながらのファリサイ派です。死者が復活するという望みを抱いていることで、わたしは裁判にかけられているのです。』 **23:7** パウロがこう言ったので、ファリサイ派とサドカイ派との間に論争が生じ、最高法院は分裂した。 **23:8** サドカイ派は復活も天使も霊もないと言い、ファリサイ派はこのいずれをも認めているからである。」

サドカイ派は、復活を信じません。だから彼らは「サッド（悲しい）カイ派」だったのですね。英語のだじゃれはさておき、サドカイ派が復活を信じていなかったということはぜひ覚えておきましょう。そして、それはとても悲しいことです。というのも、彼らは聖書の教えとイエスの復活の明らかな証拠を受け付けなかったからです。復活についての教えは、ほとんどが新約聖書にあります。旧約聖書のいくつかの箇所でも復活の教えは確かにあります。例えば、**イザヤ書 26:19** にはこうあります。「**イザ 26:19** あなたの死者が命を得／わたしのしかばねが立ち上がりますように。塵の中に住まう者よ、目を覚ませ、喜び歌え。あなたの送られる露は光の露。あなたは死霊の地にそれを降らせられます。」

この箇所は、明らかに復活について語っています。しかし、サドカイ派の人々はこれ信じようとはしませんでした。残念ながら、今も多くの人々が復活を信じようとはしませんでした。

なぜ復活はそれほど信じがたいことなのでしょう。聖書は、神が天と地を創造されたと語ります。これを受け入れられるなら、復活についても受け入れられるはずです。神がすべてのものを創る力を持っておられたのなら、死者をよみがえらせる力もあるはずです。そして、聖書に記されているとおり、また、歴史上の根拠が証明するとおり、神はイエスを死から復活させられました。

これは盲目の信仰ではありません。1 コリント 15:3-6 で、パウロは目撃者の証言があることを訴えています。「15:3 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、15:5 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。15:6 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたらしろ、大部分は今なお生き残っています。」

聖書は復活の証拠を示しています。また、歴史的に見ても、初代教会の急激な成長を説明するとき、墓からよみがえって生きておられるイエスを見たという多くの目撃証言の影響があったことを無視することはできません。ペトロやその他の使徒たち、多くの弟子たちは、よみがえった主イエスと出会いました。これこそが、聖霊の働きと相まって、彼らの説教と証を力強いものとしたのです。そうして、歴史を見ればわかるように、厳しい迫害の下にあるにもかかわらず、教会はどんどん成長を続けました。

OIC に続けて来ている方なら、これらのことは何度も話していますので、すでにご存じだと思います。けれども今日は、今まであまり触れられなかったことについても話したいと思います。それは、復活の性質についてです。まず、聖書には、死者がよみがえった奇跡についていくつか記されていますが、イエスの復活は、他の復活とはまったく異なるものです。

ヨハネ 11 章のラザロの話覚えていますか。ラザロは死んで埋葬され、その 4 日後にイエスが墓から出てきなさいと彼を呼ばれました。しかし、イエスがラザロの名を呼ばれた時、彼は生きて墓から出てきました。

(絵画：ドゥッチョ・ディ・ブオニンセーニャ、ラザロの蘇生、1310-11)
ラザロの証がどれほどの力を持っていたかわかりますか。しかし、教会の伝承によると、その 30 年後にラザロは再び死んだそうです。ラザロの復活は、永遠の命にいたる復活ではありませんでした。むしろ、ラザロの体が一時的に健康を取り戻し、寿命が少し伸びたということに過ぎません。



それに対して、イエスの復活は、永遠の命にいたる復活です。墓からよみがえって弟子たちに現れた後、イエスは天に昇られ、今も永遠までも生きつづけられます。そして、終わりの日には、イエスは再び来て、すべての人にご自身をあらわされます。イエスが天に昇られた時、御使いたちが弟子たちに現れてこう言いました。(使徒 1:11b) 「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」天に昇られたこのイエスご自身が、再び来られるのです。このお方は、永遠に生きていらっしゃるのです。

イエスの復活は、栄光のからだにおける永遠の命にいたる復活です。栄光のからだは現実にあるのです。幻想ではありません。よみがえったイエスは、弟子たちと食事をともにしました。彼らはイエスと会話をし、からだに触れました。そして、ともに歩きました。栄光のからだは実在するのです。しかし、私たち人間の体のような制限はありません。復活のからだは、ヨハネ 20 章でイエスがなさったように、カギのかかった部屋に入ることもできます。復活のからだは、使徒 1 章でイエスがそうなさったように、天に昇ることができます。そして、復活のからだは、老いたり死んだりすることがありません。永遠に生きています。驚くべきことに、聖書は、イエスを信じる私たちすべてが、栄光の復活のからだにおける永遠の命を受けると約束しています。

天国の生き物には体がなく、お互いに交わったり、食事をともにしたりすることはないと考

える人がいます。しかし、聖書はそうは教えていません。イエスが最後の晩餐で杯を弟子たちに渡した後、何と言われたのでしょうか。マタイ 26:29 で、イエスは言われました。「26:29 言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」天国では、大宴会が行われるのです。そして、私たちはごちそうと最良のぶどう酒を主イエスとともに分かち合うのです。そうするためには体が必要ですし、聖書も私たちにからだがあると語っています。

1 コリント 15 章で、パウロは種が植物へと成長していくことを例に挙げ、42-44 節でこのように語っています。「15:42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、15:43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。15:44 つまり、自然の命の体が蒔かれて、**霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。**」このような例えは不完全で、すべての疑問を解決するものではありませんが、力強い真理も含まれています。人間の体はいずれ死に、種のように地に埋められます。火葬や立派なお墓も、この事実を覆すことはありません。すべてはいずれ地に埋められるのです。しかし、死んで土に帰ることが確実に起こることなら、イエスを信じた者が栄光へと復活させられることもまた確実に起こるのです。

IV. 結び

神の約束は確実なものです。そして、天国での永遠の命にいたる復活の約束は、大いなる希望をもたらす良き知らせです。この墮落した世のものは、私たちの弱くて死にゆく体も含み、すべて一時のものであり、保証のないものです。しかし、復活の約束と希望は、人生の試練のただ中で、私たちに力と確信を与えてくれます。私たちの生き方、そして働きは無駄ではないのです。それは神のご栄光のためです。そのひとつも失われることはありません。なぜなら、すべての良いものは、神が約束された新しい天と地において復活させられるからです。最後に、1 コリント 15 : 58 のパウロの言葉を読んで締めくくりたいと思います。「15:58 わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。」

V. 祈り

愛する天の父よ、

預言者をとおして語られた、またみことばに記された、あなたのすばらしい約束を感謝します。救いの道を備えてくださったことを感謝します。十字架という橋をかけてくださり、私たちが死から永遠の命へと渡ることができるようにして下さってありがとうございます。天国に場所を備えて下さっていることも感謝します。そこで、私たちは主イエスとともに祝い、平安と喜びのうちに永遠に住まうことができます。恵み深き愛する主よ、私たちが皆あなたのみことばを信じ、イエスを信頼することができますように祈ります。そして、イエスが十字架上で完成して下さった御業を信じることができますように。そして、信仰によってあなたの約束を受け取ることができますように。主よ、あなたの聖霊をあなたの民に注いでください。私たちをきよめ、心新たにしてください。今来てください。そして、あなたの民の必要を満たしてください。あなたは一人ひとりのすべての必要をご存知です。悲しむ人を慰めてください。弱っている人を強めてください。病に苦しむ人を癒してください。あなたの尽きない愛とあわれみをもって、あなたの栄光があらわされるために、あなたの民の必要を満たしてください。主よ、あなたに栄光がありますように。私たちの生活、家庭、教会、そしてこの国で、あなたの栄光があらわされますように。あなたが力を帯びて帰って来られるその日のために、あなたの教会である私たちを備えてください。イエスの尊き御名によって祈ります。アーメン。